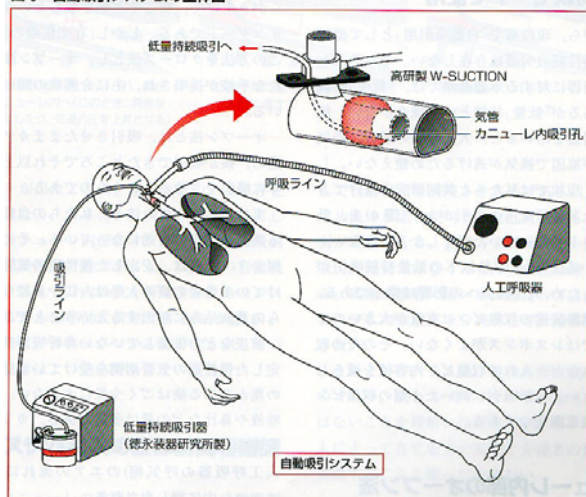


## 持続吸引システムについて

2017年9月24日  
トクソー技研株式会社  
徳永 修一

- 「自動吸引引器」開発の経緯  
「痰」の吸引は大変に過酷・危険
  - ① 1～2時間毎に吸引、夜間も吸引が必要
  - ② 患者の苦痛、家族の介護負担が過酷
  - ③ 痰吸引や人工呼吸器の事故が多い
- 自動吸引器の仕組み（右図参照）
  - ① 気管切開をした患者の気管内痰を24時間持続的に吸引します。人工呼吸器をした患者は呼吸に影響がない微小流量で持続吸引をします。
  - ② 痰吸引器「アモレSU1」と専用の気管カニューレを組み合わせて使用します。
- 特長
  - ① 一般吸引から低量持続吸引まで広範囲  
吸引流量=0～16L/分
  - ② 粘稠痰の吸引が可能  
吸引圧力=0～80kPA
  - ③ 運転音が静か
  - ④ 耐久性がある
  - ① 痰吸引路が一体化(内方吸引口)
  - ② 吸引口がカニューレ内なので安全(気管壁に吸着しない)
- 自動吸引器の使用方法（操作パネル図参照）
  - ① 持続吸引は医師の管理下で使用
  - ② 専用気管カニューレの装着
  - ③ 持続吸引器「アモレSU1」の設定  
・吸引流量=1～2、・吸引圧=「高」
  - ④ 持続吸引器の設置・・・本人より低い位置
  - ⑤ 運転スイッチを入れる・・・持続吸引開始
  - ⑥ 吸引状態、人工呼吸器、違和感の確認
- 自動吸引器の導入の手順
  - ① 自動吸引マニュアル(山本医師作成)を見て理解(右図)
  - ② 本人と医師の了解と判断のもとで使用
  - ③ 専用気管カニューレの変更 → 違和感がないか
  - ④ 低量持続吸引器使用 → 吸引流量、吸引圧の設定
  - ⑤ 人工呼吸器の確認、本人の違和感
  - ⑥ 使用経過の確認 → 人工呼吸器、気管カニューレの状況
- 自動吸引器の活用について
  - ① 在宅  
・老々介護でも在宅可能(夜間だけでも吸引が不要)
  - ② 病院・施設  
・看護者の負担軽減(夜間の吸引負担軽減)
  - ③ 本人  
・QOLの向上・・・本人の苦痛の軽減、  
・夜もぐっすり眠れる
  - ④ 吸引ケアの改善  
・用手吸引回数の減少  
・誤嚥等の減少  
※通常の排痰ケアは必要です(持続吸引器は補助的役割)

図3 自動吸引システムの全体図



持続吸引器「アモレSU1」

専用気管カニューレ



持続吸引器「アモレSU1」の操作パネル



自動吸引マニュアルのホームページ



<お問い合わせ先>

トクソー技研株式会社 商品部  
大分県宇佐市大根川318番地  
TEL : 0978-33-5595  
MAIL : info@amor.co.jp